高レベル放射性廃棄物地層処分に係る大学生との対話

Dialogue with college students on geological disposal of high-level radioactive waste

*山野 直樹 [1]
[1] 特定非営利活動法人放射線線量解析ネットワーク

高レベル放射性廃棄物地層処分に対する市民の理解促進を図るため，将来のオピニオンリーダーとなる大学生との対話活動を行った。地域参画型リスクコミュニケーション手法を適用し，ワークショップと見学会を組み合わせて効果的な理解促進を図るとともに，社会的課題の抽出と改善に向けた議論を行い有用な知見を得たので報告する。

キーワード：放射性廃棄物，地層処分，HLW，地域参画型，リスクコミュニケーション，対話

1. はじめに

筆者らは，地域参画型リスクコミュニケーション手法 [1] を用いて，地層処分に係る一般市民との対話活動を平成 28～29 年度に行った。平成 28 年度はワークショップと見学会をそれぞれ 1 回実施したが，地層処分を初めて知る参加者には，技術的安全性から社会的課題に至るまでの広範な内容を 1 回のワークショップと見学会で理解することは困難であることが分かった。そのため，平成 29 年度は 5 回のワークショップと 2 回の見学会を組み合わせ，参加協力を要請した。様々な対話と議論を通して今後の理解推進活動の在り方について貴重な意見を聴取することができた。

2. 地層処分ワークショップ・見学会の実施内容

平成 28 年度は，大学院生（東京大，東工大）5 名，大学講師 1 名，会社員 1 名，理科教諭 1 名の 8 名に対して実施した。平成 29 年度は，学部生（慶応大，東京都市大，東工大）6 名，大学院生（東工大）3 名，理科教諭 1 名の 10 名で実施した。ワークショップは都内の会議室を借用して，参加の容易な休日に実施した。見学会はワークショップを挟む形で 2 回行い，幌延深地層研究センターと六ケ所村原燃施設を見学した。ワークショップでは前半 1 時間を専門家の講演，後半 2 時間半を意見交換の場として対話を行った。

3. 論点整理と得られた成果

最初に論点として，放射性廃棄物，再処理を含む原子燃料サイクル，ガラス固化体，地層処分の技術的課題, 実施の進め方, 科学的特性マップ等の要点整理と「鍵になる質問」及び市民パネルの結論（UK CEED:1999）を提示し，対話の進め方（アジェンダ）を明確にした。社会的課題に関しては NUMO の担当者を交えた 2 回の意見交換を行った。幌延見学会では，地下坑道における実際の人工バリアを見て，地層処分のイメージ，地下水対策・排水処理や地域との信頼構築の努力が理解された。六ケ所村見学会では，実際の貯蔵・保管状況を見て，厳格に保管・貯蔵されている状況が理解された。また，六ケ所村意見交換会では，地域の環境，文化，教育，経済の変化について地域住民から生の声を聞くことができた。興味や関心を持たない層に，自分達の問題として気づいてもらうための方策を検討し，学生からのアイデアを聴取した。

4. おわりに

高レベル放射性廃棄物地層処分に対する理解促進のため，全国的な情報発信活動と並行して，科学的特性マップ提示後の全国意見交換会が NUMO 主催で実施されているが，地層処分の問題は，放射線・放射能，技術開発の現状，岩石学や地球物理などの地下深部の特性，原子力発電の将来展望，心理学や社会学の考察など極めて範囲が広く，１～２回程度のワークショップでは総合的な対話や議論を行うことは難しい。

5 回のワークショップと 2 回の見学会を組み合わせて，現場を見て気づき，次のワークショップでの対話に活かすことができた。この方法の有効性を他の活動団体にも拡げることが極めて重要である。

謝辞 本活動は高レベル放射性廃棄物地層処分に係わる学習の機会提供事業［日本原子力文化財団］の助成を受けた。

参考文献 [1] 山野直樹，市民との対話－我が国における活動事例，日本原子力学会誌 60 巻，第 2 号，pp. 93-96 (2018).

* Naoki Yamano[1], [1]Registered Non-Profit Organization Radiation Dose Analysis and Evaluation Network.